潔教育基本要項の発表以来、目立った進展はみられていないが、民間団体の活動が活発化してきた。

ことに、生殖医学の目覚しい進歩により、世界における性革命の時代到来と評されただけあって、婦人の妊娠・疾患よりの解放は、人間の性行動を活発化させてきた。

総理府調査「青少年の性行動」昭和四六年度・昭和五六年によれば、現代の日本は次第に、欧米型を指向しつゝある。

近代の情報化社会の中で、価値観の多様化は旧い性倫理観を稀薄にさせ、性的秩序や性規範のわくは緩和化の傾向にある。

ヨーロッパ世界の一部では、性の自由化進行に抗し、性哲学への指向が台頭されつゝある。この現象は、潜の抱く性の宗教的理念にも接近する一歩ではあるまいか。

（広島県支部）

藤野厳九郎記念館収蔵遺品について

泉　彪之助

昭和五九年七月一四日、福井県芦原町に魯迅の仙台医学専門学校時代の恩師藤野厳九郎（以下厳九郎）の記念館が開館した。この記念館には、文書類を始めとして貴重な遺品が収蔵展示されているので紹介したい。

1　記念館開館の経緯

昭和二〇年厳九郎の死去後、遺品は雄島村（現三国町）宿（しゅく）の家に保存されていたが、後に次男龍弥氏が一部を横浜の自宅に移した。昭和五八年宿の家は改築される事になり、建物と遺品とが、横浜に保存されていた分を含めて、芦原町に寄贈された。芦原町は、これを基礎として記念館を建設した。

2　遺品の内容

宿および横浜の遺品の大部分が寄贈されたため、遺品の内容は多く、日常生活用品、蔵書、文書類などからなる。

この内、重要なのは文書類で、藤野厳九郎伝の研究に有用な文書を多数含んでいる。以下主な文書、書籍について述べる。

(1) 先祖に関するもの

父昇八郎自筆の系図、祖父勤所の経歴を記した覚書などが見いだされた。これらについては従来二次史料しか知られていなかったが、より詳細な検討が可能となった。

(2) 厳九郎の学歴に関するもの

小中学校の証書類については一部を昨年の本学会で供覧したが、多数が発見されている。

卒業証書を含む愛知医学校の証書類が見いだされた。卒業証書による愛知医学校の卒業年月日（明治二九年一二月一五日）は、演者が先に履歴書から推定した日（同年一一月一一日）よりも後で、しかも愛知医学校の助手および愛知病院診察医補助の任命辞令の日付（同年一二月二日）よりも後である。演者が先に推定した日は、卒業の仮免状を受けた日付であることが判明した。

(3) 職歴に関するもの

愛知医学校、仙台医学専門学校、三井慈善病院のそれぞれの辞令、あるいは贈位の証書などが発見された。また数種の自筆履歴書が存在する。これらにより、たとえば、東北帝国大学退職時、従来知られていた臨時講師解職のあと、解剖学教室臨時標本整理を大正四年一一月一日から大正五年三月三一日まで嘱託されたこと、三井慈善病院では、耳鼻咽喉科講習を受けた後、同院に同年六月二二日から一二月一五日まで医員として勤務したことが明らかとなった。

(4) 福井における開業生活について

診療記録、処方記録、診断書、請求書、名刺、ゴム印、ダイレクトメールなどがある。

「医師職業能力申告書」は昨年本学会で供覧した他に、数種の草稿が見いだされた。これらによって、本荘村（現芦原町）中番の診療所は法的には出張診療所であり、宿の自宅が正規の診療所として届けられていたことが判明した。

(5) 魯迅との関係において

魯迅自筆の文書は発見されなかったが、魯迅夫人許広平の一九五六年来日の時の書状が見いだされた。その他、増

田渉、内山完造など多数の関係者の書簡があった。

(6) 家族とのつながりにおいて

長男恒弥へあてた心暖まる手紙、恒弥のために自筆で作成したフランス語の教科書など、家族との交流を示す史料が展示されている。

(7) 書簡類

上に述べた以外に多数の書簡があり、まだ大部分は未整理である。興味ある例は、第四高等学校医学部山崎幹らの手紙で、厳九郎は愛知医学校勤務の終りごろ、第四高等学校医学部にたいして就職を希望し、上司の反対で実現しなかったらしい。この過程で、「たとえば仙台医学専門学校などもあることだから」というようなことが、厳九郎への返書中に書かれている。仙台医学専門学校に就職した理由は、このあたりにあるのかも知れない。

また、東北帝国大学退職時、朝鮮総督府立医院付属の医育機関に就職を希望したらしく、断りの返書が見いだされた。

(8) 書籍

蔵書もまだ十分な整理が行われていないが、書籍とくに医学書はそれほど多くなく、かなり他へ寄贈されたものと思われる。東北帝国大学からの、寄贈に対する感謝状も発見された。

辞書を含め、語学書がかなりあり、その範囲は、ギリシャ語、ラテン語、ドイツ語、英語、フランス語、オランダ語に及んでいる。従来の通説に反して、厳九郎は語学が得意であったものと考えられる。

また漢学書や、令息に習字および素読のために自筆で書き与えた漢学書などがあり、漢学が厳九郎の教養の重要な部分を占めていることが分かる。

(福井県立短期大学第一看護学科)